

令和5年度第1回三鷹市商工振興対策審議会 会議録

- 開催日：令和5年7月27日（木）午後7時から午後8時40分まで
- 会場：三鷹市教育センター2階 第二中研修室
- 出席委員：沖野委員、斎藤委員、大西委員、池島委員、額田委員
遠藤委員、森本委員、羽田野委員、岩崎委員
吉田委員、川崎委員、北委員、荒井委員、関口委員
大倉委員、太田委員、岩見委員、中泉委員、大城委員
- 傍聴者：なし

1 開会

【委嘱状の交付】

- ・席上配付にて各委員に委嘱状を交付。

なお、欠席の矢田部委員には、別途委嘱状を交付することとした。

【新任委員より挨拶】

- ・遠藤委員、森本委員、大倉委員、太田委員、岩見委員、中泉委員、大城委員より新任挨拶。

【出席状況の確認】

- ・開会時点で委員定数20名中19名の出席をもって、過半数を超えているため、三鷹市商工振興対策審議会条例第6条第2項に基づき会議は成立。

【会議の公開及び傍聴人の決定について】

- ・三鷹市市民会議、審議会等の会議の公開に関する条例第6条に基づき、会議開催の事前公表を令和5年7月14日よりホームページにて実施し、21日午後5時まで傍聴希望者を募集した。
- ・傍聴希望者なし。

【会長挨拶】

- ・池島会長より挨拶

【会議録について】

- ・三鷹市市民会議、審議会等の会議の公開に関する条例第9条、第10条に基づき会議録を作成し、決裁後閲覧に供する。

【会議録署名人の指名】

- ・ 会議録署名人の指名は、選出区分ごとに名簿順から指名する。
「消費者の代表」選出区分から 沖野委員
「市議会議員」選出区分から 大倉委員

2 議事

【(1) 意見交換 市内の経済情勢及び事業者支援策について】

[委員]

・ 多摩地域、三鷹市の現状の景況感について、1,000社強の景況調査を四半期に1度行っている。3月期には原材料や燃料費の高騰により景況感が下降したが、少しずつコロナ禍から回復してきており、6月末の調査結果では、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行以後、業況判断DIが約10%増加し、全業種において改善がみられた。

一方で、消費動向の回復の恩恵を受けないまま、コロナ融資の資金が底をつき資金繰り倒産や市税の滞納に繋がる企業が出てきている。調査による数値には表れないが企業間格差が非常に大きくなっている。また、コロナ禍前から事業が成り立っていなかった企業の資金繰りが窮地に立たされている。

[委員]

・ 同業種でも継続できる企業と立ち直れない企業の特徴や業界による比較をお願いしたい。

[委員]

・ 大分類の卸売業・小売業・サービス業がコロナ禍による影響が大きく、6月の景況調査で業況判断DIが依然としてマイナスとなっている。一方で、製造業・建設業・不動産業は非常に回復のスピードが速く、マイナスになっている業種を補う形となっている。

[委員]

・ 同業界の中でも堅調な企業とそうでない企業との違いは何か。また、支援のあり方についての考えを聞きたい。

[委員]

・ 製造業を例とすると、製造した製品を国内市場か海外に向けて輸出しているかで異なっており、海外の市場に供給している企業であるほど、伸び率が大きいのが特徴的である。

・伸び率が悪いと言われている企業を成長軌道に乗せるためには、多くの時間と労力を要する。専門家や金融機関などが積極的に伴走型支援を行うことにより、初めて回復していくと考える。

[委員]

・三鷹は9割以上が中小企業小規模事業者で、商店やサービス業向けに行った5年前のアンケート調査では、承継者がいない企業が4割となっており、現在も状況は変わっていない。

・コロナ禍前と比較してお客様は戻ってきているが、維持継続していくための人材が不足している。時間と体力的な支援に加えてマンパワーが必要である。

・給料を高くすれば求職者が集まるということを理解しているが、中小企業は価格転嫁が難しく、賃上げが難しい。金融機関による支援のほか、市でも補助金事業を行っているが、国の抜本的な政策などが必要ではないか。

・機械化・DX化が進んでいるが、資金を投入するだけでなく、キャッシュレス決済などに関しても慣れていくための時間を要する。

[委員]

・事業承継について昨年三鷹中央通り商店会を中心とした調査を行った。三鷹中央通り商店会は6割が創業50年以上の店舗となっている。さらに6割が50歳代から60歳代、3割が70歳代で、合計で9割が50歳以上である。

・経営者の世代は3代目が5割、2代目が3割、初代は少数。

・今後の経営方針で現状維持は42%、明確な方針なしは26%。明確な方針ありが32%。7割の方が現状維持あるいは方針なしという結果。

・経営継続の意思がある方は69%で、継続するが事業転換や移転を検討中の方は22%となり、合計で91%という結果。

・様々な支援策をワンストップで相談できる窓口を設置してほしい。

・困った部分だけ専門家のスポットのコンサルを受けられる支援策を作るべき。

・市の創業支援補助事業の上限を20万円から50万円程度に引き上げてほしい。

・創業後、事業が軌道に乗るまでの支援策やサポートメニューを検討してほしい。

[委員]

・商工会のサービス業部会において、20年前はクリーニング業、美容業、理容業が主力で、不動産業は若干名、その他の業種は少なかった。しかし、現在は主力であったクリーニング業、美容業、理容業が大きく減少している状態。新たに介護、医療、弁護士業、税理士業などが増えてきている。

・大きな企業等が出店しても、商店会に入会せず会費が集まらないなど、会の運営が難

しくなっている。

[委員]

- ・委員の意見に同意する。コロナ禍前から商店街がどんどん寂れてきている。市内 26 団体のうち中心になっているのは三鷹駅前銀座商店会・三鷹中央通り商店会・三鷹南銀座会・三鷹駅前西商店会・桜通り中央会の 5 団体だが、その駅前 5 団体も厳しい状況。
- ・商店会はチェーンストアに対して商店会への参加などを促しているが、チェーンストアは、参加するために本部への意向確認等が必要であるため、即諾が得られなかったりと難しい状況。
- ・コロナ禍前から厳しい状況だが、現在は商店街の危機であり、起爆剤としてスタンプラリー・商品券を行っているが商店の参加が少ない。
- ・サマーセールを開催するが参加店舗は半数。各商店会でも打開策がない。市や都のお金を借りても返済できない。

[委員]

- ・自社の場合は、事業再構築補助金やものづくり補助金などの支援を受けたが、設備等の導入後に社員が独立してしまうなど、資金繰りや将来的な事業承継の面で課題を抱えている。

[委員]

- ・みずほ銀行三鷹支店では個人のお客様中心で取引しており、法人サポートは都心の拠点で行っている。
- ・前向きな資金のサポートをしたいが、事業承継、新事業のサポートが中長期的に成功するかは地域によって異なり、地域の特色などの状況を総合的に見てサポートを行っていく必要がある。
- ・融資のみならず事業承継の実例を含めた経営面のサポートが必要だと考えている。
- ・支援の際には、事業規模・事業計画の内容や業種・地域等を考慮し、国や保証協会の制度と上手く連携していく。

[委員]

- ・IT関連では、10月からのインボイス制度や、1月からの電子帳簿保存法に対応していかなければならない。全業種でデジタル化を着実に進めていくためにはどうするか。売上げの問題もあるなかで、制度対応の優先順位は下がってしまうが、効率化を図る手段として今回の制度転換を良い機会として、効率化や業務改善が必要ではないか。

[委員]

- ・方向性を示すコンセプトが定まっていないため、各産業がバラバラに議論しており、「三鷹市の顔」になるものが見えてこない。
- ・「三鷹市の顔」を作るうえで、三鷹駅前をどのようにブランディングしていくかは重要。そこの開発が止まってしまうのは本当にもったいない。市の「“子どもの森”基本プラン」は魅力的なコンセプトであり、本審議会内でも議論の題材としていくべきである。

[委員]

- ・商業も工業も、三鷹の産業の指針を示して実行したいが、経営者の集団の力だけでは難しいため、行政の力を借りることも必要。
- ・商業で考えると、三鷹中央通り商店会が行っているマルシェなど、店主以外の方が盛り上げている例もある。店主だけが商店街の主役ではなく、消費者や市民が地域を盛り上げる主体になっていくことで、地域の活性化や三鷹らしい商店街を作っていくのではないかと考える。それをどのように支援していくかも重要である。

[委員]

- ・具的な例として、三鷹中央通り商店会にある量り売りの店は、協働の中で生まれたシェアスペースであり、様々な業種の方が食事をとりながらまちづくりに関する議論をしている。このように、まちづくりに関する議論ができる店などの拠点が、三鷹駅前のあちこちにできている。このあたりに三鷹らしさとなる様々な芽が出ていると感じるため、議論の際に具体例として出てくると良い。

[委員]

- ・創業の取組としてトライアルの場所を提供して、三鷹中央通り商店会に出店するという取組もあった。
- ・若い世代が三鷹でお店を出すなどトライアルする際に、家賃の高さがネックになっており、チャレンジの場がないことはもったいないと感じる。一方で、もともと家賃が発生していない方は、営業を継続できている。
- ・三鷹中央通り商店会にある量り売りのお店は、小売業として環境問題等に取り組んでおり、様々な方が視察に来ている。三鷹にこのような店舗があることは誇りだと感じる。
- ・今後の駅前再開発でしっかりと事業継承していくことと、これから商売を始めたい方のサポート支援を、創業等支援事業を通して具体的に取り組んでいけば、既存店舗と新規店舗の融合ができるのではないかと考える。
- ・三鷹中央通り商店会の取組は、様々な大学や富士見商店会の出店など、連携の輪となっていることや、きらきら通り商店会では若い世代が入り込んできていることなどを

前向きにとらえて、新しい支援に取り組んでいくことが打開策なのではないかと考える。

[委員]

- ・中小企業庁は、支援メニューが出ていても情報に辿り着きづらい、使いづらいといった声を受け、中小企業庁が自ら出向いてサポートを行っている。
- ・「よろず支援拠点」を利用している中小企業を三鷹市では聞いたことがないが、このような伴走型支援を活用している中小企業があるのか。また、商工会と連携があるのか聞いてみたい。

[課長]

- ・伴走型支援を意識した取組としては、市と商工会が連携し経営相談窓口を週2回行っている。商工会の経営指導員や中小企業診断士等が相談員となって補助金申請のサポート等を実施している。

[委員]

「よろず支援拠点」は中小機構が行っており、都内では拠点が新橋と立川にしかないため、三鷹市の事業者が相談に行くためには距離的なハードルがある。商工会としては、「よろず支援拠点」と同類の取組を既に行っている。

[委員]

- ・先ほども申し上げたが、商工会は国、都の支援メニューの受け皿であり、さらに市の支援メニューも一括で相談できるワンストップの窓口があると良いのではないかと。補助金の申請は複雑になってきており、商工会とは以前から議論していた。

[委員]

- ・本日議論された中小企業の課題に対する様々な支援が充実していくことを期待する。
- ・三鷹らしさを創出してどのように産業を活性化していくかが重要であると考えます。
- ・本日は前向きな意見交換ができたことに感謝する。

【(2) 報告事項 令和4年度及び5年度の産業振興施策について】

<事務局より資料1及び資料2にて説明>

- ・質疑は後日事務局へ

【(3) その他 関係団体からの報告】

<委員>

- ・みたか消費者活動センター「運営協議会だより」について

<三鷹商工会>

- ・中小企業産業活性化補助金について
- ・地域新ブランド「ミタカビト」について

<まちづくり三鷹>

- ・第20回みたかビジネスプランコンテストについて
- ・第28回三鷹まちづくりフォトコンテストについて
- ・Poki 4 コマまんがコンテスト 2023 の概要について

【事務局より】

- ・次回開催は令和6年2月頃を予定している。

3 閉会